

第一回獅子吼ゴールデンカップ2008

2008. 10. 4 (土) ~10. 5 (日)

名誉大会長挨拶 白山市鶴来支所長 越 新一



本日は素晴らしい天気恵まれ、遠方からも今大会にご参加いただきまして、ありがとうございます。

過去にさかのぼりますと約30年前、ここ獅子吼高原ではハングライダーがフライトを初め、その後スカイスポーツの基地として長きに渡り栄えてまいりました。是非今年も獅子吼高原でハングライダーの大会を行いたいという話をしましたところ、早速このように開催していただきましたことに感謝申し上げます。

この大会が素晴らしく盛り上がりまして成功することを願いますが、安全が第一であります。選手の皆様におかれましては充分気をつけて楽しく、また技を競うような大会にさせていただきたいと思っております。

また今回は地元の金剣宮の「ほうらい祭り」が催されております。是非大会のあとは町のほうへ下りていただいて、素晴らしいお祭りにも参加していただきたいと思っております。選手の皆様の健闘を祈りましてご挨拶とさせていただきます。

来賓 スカイ獅子吼支配人 紺清 美千子 様



秋晴れのすがすがしい天気恵まれました獅子吼高原に、皆様ようこそいらっしゃいました。

この獅子吼の金獅子トロフィーはどなたの手に渡るのでしょうか？いつも向かい風に向かって頑張っている皆様へ敬意を表しております。

今日、明日の2日間、選手の皆さん頑張ってください！

10月4日（土）初日



朝のブリーフィング

朝から晴天に恵まれ、南西の風でいいコンディションが予想されます。

14名のハング選手の皆さんは、神奈川・愛知・岐阜・富山・福井など朝早くから集まって来られました。受付で参加賞（スカイ獅子吼パラグライダーズスクール協賛品のザック）を受け取り、鶴来のほうらい祭りを祝って、笹寿司も配り大変好評を得ました。

8時半には全員揃って車の上にハングライダーを並べて移動開始。

山頂では特別参加のパラグライダー選手やスクール生も参加して9時半から開会式、実行委員長吉美太郎の開会のあいさつのもと、名誉大会長である越新一 白山市鶴来支所長から歓迎のあいさつ、来賓としてスカイ獅子吼の紺清美千子支配人からご祝辞をいただきました。



名誉大会長 越新一 白山市鶴来支所長 歓迎の挨拶



来賓 紺清美千子様 スカイ獅子吼支配人 ご祝辞

開会式終了後は金子外幸競技委員長が、今回初めての試みである「最高獲得高度」と「ランディング技術」について競技説明を行いました。



選手代表 長岡克樹 選手による選手宣誓



金子競技委員長による競技説明

テイクオフは3-4mの西風が入って、まず金子競技委員長からフライト開始。好条件になかなか降りる気配もなく、高度の争いも面白くなりそうです。すでにパラグライダーは朝早くからフライトを開始、すでに獅子吼の空は賑わっています。

今日のフライトコンディションは寒冷前線の通過が心配されましたが、予報よりも前線の活動は南下に伴って弱まり、レーダーの雨雲が接近に伴って徐々に消滅していくのが確認できました。その結果適度に寒気に覆われた程よいサーマルコンディションに変わり、しかも風向きは安定した西風とあって雲に入らないようには気をつければ、山際でサーマルとリッジソアリングで延々と飛んでいられます。



積雲が次々に現れ、絶好のコンディションの中初日の競技が行われました

パラグライダーがまずソアリング開始。風が乱れる感じは少なく、パラグライダー講習生の皆さんも次々にフライトしました。その様子を見ながら急いで準備を進めていたハンググライダーの選手も、11:00にゲートオープン、競技をスタートしました。パイロット以上の方はさすが、きっちりサーマルを捕まえて見事雲底まで高度を上げきる姿がたくさん見えました。高度も制限いっぱいの1500m近くを飛んでいる模様。



続々とランディングアプローチを開始する選手たち

12時過ぎには1機目がランディングアプローチを開始、規定の場周アプローチには最高の2mくらいの西風が入っていて、選手の皆さんの真剣な気持ちが伝わるようなセーフティランディングが続きました。審査員は金子競技委員長・パラグライダーインストラクター初瀬・パラグライダースクール生の高瀬さん・一般代表（元フライヤー）相河さん・ハングスクール生の中井さん。採点表の審査基準をもとに基本と主観を織り交ぜながらの判定は、見ているほうも楽しいものでした。特にファイナルからターゲットが決まると、観客からは大きな拍手が。ハンググライダーC級の講習生の方も参加されていたのですが、さすがランディングの飛形点に関してはパイロットに負けず劣らず高得点をGET。



15時のランディングクローズまでにすべての選手がランディング、さっそく集計が始まりました。最高高度は1400mを超えたあたり、今日のコンディションのよさがくっきり。そして今日のTOPの成績は高度得点、ランディング飛形点ともに高得点を記録した、愛知県バーズアイビューからお越しの金原正浩さんでした。明日もこの調子でいけるでしょうか？



親睦会準備は女性メンバーのお手伝いでスムーズに運び、17時から予定どおり、みそ鍋・オードブルなど手作り系宴会をスカイ獅子吼スクール事務所で行いました。ハング・パラ合わせて約30名のフライヤーでショップ内はいっぱいでしたが、皆で今日のフライトを振り返り、最近のフライト事情などを情報交換しながら楽しく飲むことができました。

そして夜8時を回って、いよいよ鶴来のほうらい祭りへ出発。夜のパイロンは金子競技委員長の先導で徒歩でまず金劔宮から。男坂を下って夜店の立ち並ぶ通りに出たら、まずは萬歳樂で一杯。次は横町うらら館前で神輿と獅子舞見学、うらら館の中では特別に日本酒1本を皆でいただき座敷で休憩、次は隣の菊姫で茶碗酒。ちょうど造り物の一体が玄関前で祝い歌を歌いました。そして夜もふけて10時過ぎにやっと鶴雲荘に帰着・・・長い長い1日でした。



10月5日（日）最終日

朝は曇り空ながら、風はほとんどありません。山頂で弱い南西風が入ってきた10時すぎにゲートオープン。今日は高度獲得が期待できないので、ランディング技術得点のみの勝負となりました。

ランディング場はほぼ無風、時折弱い南寄りの風を感じるときもありましたが、全員が場周アプローチでのランディングをしました。多少のフォローであっても、確かなテクニックであざやかなターゲットランディングを見せる選手もいました。



審査員は金子競技委員長と一般代表元スクール生相河さんの二人

ハングにとってはむずかしい風ではありましたが、地元の利を生かしてハングスクール生C級の川端選手、基本に忠実なパイロット代表倉選手、岐阜の池田山のインストラクターで、今回ただひとりの女性パイロット鈴木選手は華麗にターゲットイン、昨日もっとも高度を稼いでトップの愛知県金原選手も満点のランディングで2本目も制して完全優勝。

参加したパイロットの皆さんにとっても、ただ見ている人たちにとっても、「安全なランディングとは何か？」考えるよい機会になったのではないかと思います。

お昼には全員が無事競技を終了し、カレーうどんの昼食サービス。相河さんや会員・選手の皆さんのご協力で、食事サービス・集計・閉会式準備などもスムーズに運ぶことができました。





13時半から閉会式、金子競技委員長から終了のあいさつ、表彰式では優勝の金原選手に賞状と金の獅子頭トロフィ、後援の北陸中日新聞社から優勝盾、賞金3万円にデサント社のスポーツウェアなどを授与。準優勝は富山の北川選手、賞状・賞金2万円・デサントのウェアなど。3位は岐阜の鈴木選手、販売代理店として、インストラクターとして、女性パイロットとして、お忙しい中参加していただき感謝いたします。賞状と賞金1万円、デサントのウェアなどを贈りました。また特別賞として、総合でランディング技術得点上位の地元倉選手・川端選手には、バーズアイビューから協賛いただいたサングラスを贈呈。また、参加選手すべてにはデサント社のスポーツウェアを贈り、来年の再開を望みつつ閉会しました。



今大会を振り返って 実行委員長 吉美太郎

今大会は「獅子吼のハングの火を消したくない」ハングスクールのインストラクター金子さんの熱意とスカイスポーツにいつも多大なるご理解をいただいております白山市並びに地元の皆様方のご支援により、成功のうちに無事終了することができました。

心配された天気も好転し2日間とも競技が成立、獅子吼高原での恵まれたフライト環境の中、選手の皆様には楽しんで競技をしていただくことができました。北陸のハングフライヤーをはじめ、東海地方からも参加していただき、フライヤー同士の交流を十分に深めることができたのではないかと思います。

今後もこの大会を継続させ、そしてスカイスポーツを通じて地元獅子吼高原を盛り上げていけるよう努力してまいります。皆様のご協力本当にありがとうございました。